



富士地区
喫煙対策推進
誌上フォーラム

新連載○霊峰富士に寄り添う未来志向の喫煙対策を!!

タバコ1本吸うと 20分間寿命が縮みます

鈴木 淳
鈴木内科医院院長

はじめに

太古の昔から聳え立つ富士山は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関 J.N.E.S.C.O）が2013年6月22日に世界遺産に登録しました。大変よろこばしいことですが、登録まで20年以上掛かりました。

実際には、登山者の屎尿処理の不備、ごみ投機問題など環境保全の状況が障害になり、推薦候補からは外れたこともありましたが、一連の手続き、現地視察などを経て世界遺産に認定されたのです。

荘厳な姿を見せる富士山は、古来、山岳信仰といった宗教的側面や、その姿に対する深い憧憬、自然との共生を重んじる伝統などを育み、日本はもとより、世界的にも多くの芸術の源泉となってきたことが評価されました。

このような世界的偉業とは裏腹に、かつての富士地区には、高度経済成長期に解決すべき問題がありました。

2つの甚大な公害

我が国では1960年代から、公害問題が取り沙汰されました。ご多分に漏れず、富士地区でも大気汚染・ヘド

ロ汚染・騒音・悪臭などの問題が表面化しました。

これらの問題に対し、地域住民は官民が歩調を合わせ、市内の大手製紙会社と粘り強く交渉するなど、対策を講じました。国策ともいえる経済至上主義に対し、ハッキリと異を唱え続けたのです。

現在、富士市の大気状態、田子の浦港汚染は、かなり解決されています。東名高速道路を走行していると、異臭・悪臭が車内に流れ込んだかつての状況を思うと、隔世の感があります。しかし、富士地区には解決すべき課題がまだ残っています。

